２０２１年8月１５日（日）

老球の細道６２５号

東京五輪バスケットボール、宴のあと

会津バスケットボール協会　室　井　冨　仁

日本バスケットボール協会は１３日、東京五輪で銀メダルを獲得した女子日本代表のメンバー１２人に、それぞれ報奨金５００万円を授与すると発表した。銀メダルの金額は規定で３００万円だが、日本バスケット界初のメダル獲得が評価されて、１２日の理事会で金メダルと同額まで上乗せすることを決めたという。

また国際バスケットボール連盟（FIBA）は同じく１３日、東京五輪の結果を受けて最新の世界ランキングを発表した。これによると、日本女子は１０位から８位に、男子は４２位から３５位にランクアップした。ちなみに男女のベスト３は、共に①アメリカ②スペイン③オーストラリアとなった。ジェンダーフリー、国の強さに男女差なし。日本男子も !!

今回の東京五輪は、当初は協会のゴタゴタで参加できるかも危うかったが、JBA のガバナンスが認められ男女共に開催国出場がかなった。男女共に外国人ヘッドコーチを招聘し、長い期間に渡って強化してきた。並行して、トステインなどが中心になって行ってきたジュニア層の強化が効果を上げ、ジュニアのレベルはアジア NO1 となり、NBA 選手も輩出するようになり、世界でも十分に戦える実力がついてきた。

そんな中での東京五輪、男子は残念ながら期待はずれ、女子は期待通りの結果が出たような気がする。特に男子は、永年のサイズの不利が克服され、スタメンの平均身長が２メートル近い状況でサイズの言い訳はできない状態であった。しかし、チームプレイが機能せず、結局は八村、渡辺の助っ人に頼らざるをえない状況で、国内で長期間強化合宿をしてきた選手たちが、世界を相手に十分に実力を発揮できるまでには至っていなかった。

一方で、女子の方は地産地消、国内で活躍する選手でチームを構成し、サイズは今大会下から２番目だったが、明確なチームコンセプトと練習量、そしてトム・ホーバスコーチの指導力（今大会高い評価）でミラクルを起こした。日本中の普通のチームに、「身長がすべてではない。小は大を凌駕する」ということを示して大きな希望を与えてくれた。特に、エース渡嘉敷がケガで途中リタイアするという緊急事態宣言の中で、ガード陣のゲームコントロールに全員の３Ｐシュートと鳥肌の立つプレイで、その危機を見事に乗り切った。マスコミのクローズアップ、協会の報奨金アップはやむなしだろう（但し、調子に乗らないでね）。

世界のバスケットボールは予てから言われていたオールラウンドプレイヤー化が増々顕著であった。誰もが３Ｐシュートを打てて、しかも高確率で入れる。そしてドリブルからの１：１能力に長けて、色々なステップでデイフェンスをかわしフィニッシュを決め切る。しかも鬼のようなデイフェンスプレッシャー、コンタクト受けながらもである。

現在は非常に便利である。東京五輪現場に行かなくとも NHK のおかげでインターネットですべての試合が見れる。私は録画した試合をもう一度見ながら、世界のトレンドは何か、ジュニア期にどうすれば世界に近づけるか、新型コロナと一緒に考えて生きたい。